

第5章 活力ある産業を育むまち

第1節 農業

現状と課題

● 農業は、人々の食を支えるだけでなく、美しい国土や景観を形成するとともに、防災の役割も担う重要な営みです。しかし、海外からの農作物の輸入増加、農業従事者の高齢化などにより、経営は厳しい状況に置かれています。

● 芦屋町では、山鹿耕地で水稻・青ねぎなど、芦屋台地でキャベツ・はくさい・赤しそなどが生産されています。青ねぎ（かおりっこ）や赤しそ（芳香しそ）はブランド化され、直売所への出荷や学校給食への供給など、地産地消が進んでおり、これらのさらなる生産拡大をはじめ、付加価値の高い農作物の生産などを支援し、農業経営の安定化を図ることが必要です。

● 第56次（平成20年度～21年度）福岡県農林水産統計年報では、芦屋町の総農家数は79戸ですが、農業就業者の高齢化や離農などにより減少していくことが見込まれています。そのため、後継者や新規就農者をはじめ、中核農家など担い手への支援や農地の有効活用が課題です。

また、農業者が効率的かつ安定的な経営を行うためには、農業用水路、ため池、農道などの計画的な整備を進めていくことが必要です。

● 今後は、農業経営への支援に加え、美しい農村づくり、市民農園^{*1}を活用した農業への理解や交流の促進など多様な農業の展開及び振興を図るための総合的な取り組みが必要が必要です。



基本方向

農業経営の安定化や担い手の育成のため、地産地消への取り組みをはじめ、農地の集約化や有効利用などを図ります。また、農道や農業用水路などの整備を計画的に進めます。

^{*1}市民農園：都市住民などのレクリエーションとしての自家用野菜の栽培、高齢者の生きがいづくり、児童・生徒の体験学習などの多様な目的で、小面積の農地を利用して野菜や花などを育てるための農園のこと。

主要施策

(1) 担い手の育成支援

- 1 地産地消の拡大やブランド化、機械導入などを支援し、農業経営の安定化や農業の担い手の育成を図ります。
- 2 農業後継者や新規就農者支援をはじめ、中核農家を中心に土地利用集積を推進し、農地の有効利用を図ります。

【施策を推し進める主要事業】

No	事業名	概要
1	中核農家への支援	認定農業者 ^{*1} や利用組合の施設・機械導入などを支援します。

(2) 農地の有効利用と農業基盤整備

- 1 農業用水路、ため池、農道などを計画的に整備します。
- 2 農業とふれあう機会をつくり、農業への理解や交流促進を図る市民農園の開設を検討します。
- 3 農地と周辺景観の環境に配慮した美しい農村づくりを促進します。

【施策を推し進める主要事業】

No	事業名	概要
1	農業基盤施設改修事業	農業用水路、ため池、農道などの整備を実施します。
2	環境保全農業の推進事業	レンゲ・菜の花の種子購入助成のほか、環境保全農業を推進します。

農業を向上させる目標

指標名	現状値		目標値 (平成27年度)
	年度	値	
中核農家数	平成21年度	30人	32人
レンゲ・菜の花の作付けされた水田面積	平成21年度	8,000m ²	250,000m ²

※1認定農業者：「農業経営基盤強化促進法」に基づいて市町村が認定する農業者のこと。税制上の優遇措置や有利な条件での融資が受けられる。

第5章 活力ある産業を育むまち

第2節 水産業

現状と課題

●漁獲高の減少や漁価の低迷など水産業の現状は厳しく、また漁業就業者の高齢化に伴い全国的に漁業者が減少し、芦屋町の漁業協同組合員数も年々減少しています。

●芦屋町の漁業基地は、芦屋港湾及び柏原漁港の二つがあり、双方とも小型漁船による沿岸漁業が主で、沖ノ島・白島周辺を主な漁場としています。これまで、柏原漁港内の浚渫や老朽化した漁業施設の移転など、漁港の機能向上などに取り組んできました。また、漁業協同組合では、ヒラメの稚魚放流、アワビやアカウニの種苗放流など、つくり育てる漁業を促進してきましたが、近年藻場の機能低下が進行しているため藻場の維持・回復を図る対策が必要です。

●観光型漁業を推進するため、平成13年度に柏原活魚センター「海の駅」を完成させ海産物の販売を進めてきました。しかし、近年では、近隣市町において同様の施設が開業されたことなどから売上が減少しており、漁業経営の安定化や地産地消のためにも改善を図ることが課題です。

また、柏原漁港にある洞山については、崩落対策を平成21年度に実施しましたが、レクリエーションゾーンとしての整備も課題です。



●海の駅

基本方向

漁業経営の安定化のため、地産地消の取り組みや漁場整備を進めるとともに、活力ある漁業を推進するため、漁港基盤などの整備を計画的に進めます。

主要施策

(1) 漁業経営の安定化

- ① 漁業経営の安定化や地産地消の推進のため、漁業協同組合と協議しながら活魚センター「海の駅」の直売所増設を検討します。
- ② 優良な漁場確保のため、漁場の調査及び整備を行い、ヒラメの稚魚放流、アワビやアカウニの種苗放流など、つくり育てる漁業を支援します。

【施策を推し進める主要事業】

No	事業名	概要
1	柏原漁港区域内漁場整備事業	柏原漁港区域内の漁場の調査などを実施します。

(2) 漁港基盤の整備

- ① 漁港施設の機能向上を図るため、漁業施設の整備を促進します。
- ② 柏原漁港を漁業ゾーンとレクリエーションゾーンに区分し、漁業者や観光客などの利用向上を図ります。

【施策を推し進める主要事業】

No	事業名	概要
1	漁港施設整備事業	機能向上のため、漁港施設の集約化を行います。
2	漁港環境整備事業	柏原漁港と堂山・洞山などを整備し、ゾーン化します。

水産業を向上させる目標

指標名	現状値		目標値 (平成27年度)
	年度	値	
磯漁などの一人あたりの平均漁獲量(あわび、さざえなど)	平成21年度	237kg	250kg
柏原漁港施設の集約化	平成21年度	25%	100%

第3節 商工業

現状と課題

●商工業は地域経済を支えるだけでなく、住民にとっては生活必需品の購入や働く場としても重要です。しかし、土地利用の制約や売り上げ不振、後継者不足などによる事業所の撤退が問題となっています。

●芦屋町では、商工会と連携した商業者への支援や地域振興券の発行、制度融資、企業誘致条例の施行など商工業の振興・支援に取り組んでいます。しかし、長引く経済状況の低迷などにより町内の事業所は、日常生活用品を取り扱う店舗を中心に減少しています。加えて近年では、近隣に大型のスーパーマーケットやディスカウント店舗の立地が相次ぎ、買い物客が町外へ流出して地元での購買力が低下するという悪循環に陥っています。

商工業は住民の生活を支えるだけでなく、まちの活性化のためにも重要なものであることから、今後も商工会や関係機関と連携を図りながら、空き店舗対策や企業誘致など商工業の振興に取り組むことが課題です。



●船頭町駐車場

基本方向

商工会との連携のもと商工業の活性化に努めるとともに、船頭町駐車場を活用し、住民の生活利便性の向上などを図ります。

主要施策

(1) 商工業の振興

- ① 商工会との連携強化や制度融資などの支援により、商工業の活性化を図ります。
- ② 船頭町駐車場を活用し、中心市街地の活性化や住民の生活利便性の向上を図るとともに、空き店舗対策や企業誘致に取り組みます。

【施策を推し進める主要事業】

No	事業名	概要
1	商工会への支援	補助金の交付など商工会への支援を行い、商工業の活性化を進めます。
2	地域振興券発行事業	商工会が実施する地域振興券の発行事業を支援します。
3	名物開発事業	商工会や観光協会などと連携し、町の名物開発に取り組みます。

商工業を向上させる目標

指標名	現状値		目標値 (平成27年度)
	年度	値	
「商店街などの中心市街地の整備」の満足度*	平成21年度	2.05	2.65

※「商店街などの中心市街地の整備」に対する満足度は、平成21年度に実施した住民アンケート結果におけるすべての調査項目の平均満足度が2.65に対して、調査時点では2.05でした。

第5章 活力ある産業を育むまち

第4節 観光

現状と課題

●芦屋町は響灘に面する海岸をはじめとする美しい自然があり、芦屋釜に代表される歴史・文化的資源など多くの観光資源を有しています。

これまで、観光協会や商工会との連携のもと、まちの駅への支援や花火大会の実施、また、国民宿舎や海浜公園、レジャープール、魚見公園などの観光資源の整備を進めてきました。しかし、観光ニーズが多様化していることや観光客が夏季に偏りがちであることなどから、今後は年間を通じて観光客を集客するための観光振興が課題となっているほか、自然豊かな地域に民間企業が進出しやすい環境整備などに取り組むことが必要です。

●イベントについては、花火大会や精霊流し、民間が主催するイベントの支援などを通して交流人口の増加に取り組んでいます。10年以上続いていた砂浜の美術展については、開催規模などの問題で平成18年度以降休止の状態が続いており、引き続き開催に向けた検討を進めることが必要です。

●今後、芦屋町へ訪れる人々に対して町内での回遊性を高め、交流人口を増やしていくためには、既存の観光資源の活用と情報発信などを進めるとともに、芦屋釜の里をはじめとする歴史・文化的資源の活用が課題です。また、農業・水産業・商業分野との連携も図りながら、年間を通じた観光振興・産業振興を図ることが必要です。



●あしや花火大会

基本方向

交流人口の増加や民間企業が進出しやすい環境づくりを進めるため、観光資源の整備と活用に取り組むとともに、住民参画型の観光イベントの充実を図ります。

主要施策

(1) 観光資源の整備と活用

- ① 響灘に面する海岸をはじめとする美しい自然を活かした観光資源の整備を行います。
- ② 観光拠点である国民宿舎マリントラスあしやの計画的な整備を行います。
- ③ 関係団体とともに、芦屋町の自然・歴史・文化などを活かした観光ルートの設定を行い、その情報発信に努めます。
- ④ 玄海地区観光推進協議会をはじめとする広域観光を推進します。
- ⑤ 芦屋港の用途変更を含め、その活用について福岡県に働きかけます。

【施策を推し進める主要事業】

No	事業名	概要
1	夏井ヶ浜周辺整備	はまゆう群生地に隣接する地域を観光公園として整備します。
2	海浜公園整備事業	来場者の増、利便性向上のため、海浜公園の整備を行います。
3	国民宿舎マリントラスあしやリニューアル事業	国民宿舎マリントラスあしやで快適な宿泊環境を提供するため、計画的に整備を行います。

(2) 住民参画型観光の推進

- ① 芦屋町の特性を活かした花火大会などの観光イベントを実施します。
- ② 住民が主体となって運営するイベントの支援を行います。
- ③ 砂浜の美術展の再開について、検討を進めます。

【施策を推し進める主要事業】

No	事業名	概要
1	あしや花火大会事業	伝統ある芦屋町最大のイベントである花火大会を実行委員会形式で実施します。

観光を向上させる目標

指標名	現状値		目標値 (平成27年度)
	年度	値	
海浜公園利用者数(年間)	平成21年度	99,000人	102,000人
マリントラスあしやの利用者数(年間)	平成21年度	95,350人	113,000人